

目的 被服の着用にあたっては、社会的および美的要因への考慮と共に被服衛生学的な快適性の確保が、重要な要素となると考えられる。典型的な暑熱環境下にある都市の一つであるバンコクに着目し、そこでの着装の選択と購買行動を、アンケート調査により解明することを本研究は目的としている。本研究により快適な被服の設計に資する基礎情報がなされることが期待される。

方法 1996年8月にバンコクにあるマヒドール大学の男子学生60名、女子学生100名を対象に、タイ語で記載されたアンケート用紙を用いて着装の選択および購買行動の意志基準について調査した。

結果 アンケート対象者が大学生であることを反映して一般的には、男女共に、ジーンズの着用率が高い散歩や買い物では、一般的には8~9割の学生が、着用することがある項目として挙げられている。しかし、男女共に公式行事では、皆無に近く、女子ではパーティにもほとんど着用していないとしている。暑熱環境ではあるが、長袖シャツが好まれる傾向が読み取れる。半袖シャツの選択と同様レベルにあり、紫外線照射量の影響をさけるためかもしれない。一方、購買行動では、下着、Tシャツ類で、快適性、品質、価格が重要な考慮項目となっていた。男子のジーンズ、女子のブラジャーでは、ブランドが、一般的には、重要な購買要因となっていた。若者らしさの表れとして興味深い。